

【新学術領域研究（研究領域提案型）】

人文・社会系



研究領域名 出ユーラシアの統合的人類史学:文明創出メカニズムの解明

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

まつもと なおこ
松本 直子

研究課題番号：19H05731 研究者番号：30314660

【本研究領域の目的】

大規模で複雑な社会組織、高度な科学技術、巨大な世界宗教を含む様々な宗教的信念など、他の動物行動とは大きく異なる特異的な様相が現れたのは、文明形成期である。文明形成期は、200 万年にわたるヒト属の進化を通して継続した遊動的狩猟採集生活が大きく転換した時期であり、後代の社会・文化の基礎となった。我々がどのようにしてここに至ったのかを知るためには、文明形成がどのようにして起きたかを明らかにする必要がある。

本研究領域では二項対立的・還元論的視点を超え、自然と文化、心と物質をつなぐ人間自体、人間の行為と認知に焦点を絞り、これまでにない文明形成論を展開する。人間が物理的に生み出す物質、人間の身体、そしてそれらの相互作用の中核にあって文化を生み出す心という三つの視座の下に、文明形成期の物質文化に焦点を当てることによって、ヒト特有のニッチ構築という視点から文明が創出されるメカニズムを明らかにできるのではないかとすることが、本研究のベースとなる着想である。

【本研究領域の内容】

本研究領域は、身体を介したモノと心の相互作用に焦点を当て、人類特有の現象である文明形成がいかにしてなされ、それがどのように現代の我々の在り方を規定しているかを明らかにしようとするものである。身体を介した心と物質の相互作用は、状況によって質的・量的に変化するが、基本的なメカニズムは過去から現在まで共通しているはずである。

その基本的なメカニズムに焦点を当てることによって、文明形成期に起こったことと今起こっている



身体を介して、心は物質世界に、物質世界は心に浸潤する。人間が物質の世界を創り、物質の世界が人間を創るプロセスで身体も変化する。

ことに関する研究成果を統合する新しい研究方法を確立する。本研究領域では、ユーラシアを出てボトルネックや極限的状况を超えて拡散したホモ・サピエンスの最終到達地域である、アメリカ大陸・日本列島・オセアニアの3地域を対象として設定する。この戦略的地域設定により、異なる自然環境・歴史的経緯の下で独自に展開した複数の「文明形成」プロセスを体系的に比較することが可能となる。物質文化においていつ・どのような変化が起こったかについて実証的に研究する考古学的研究、身体を介したヒトの認知・行動と環境とのインタラクションにおいて何が起きているかについての民族誌的調査及び脳神経科学・心理学的メカニズム研究、さらに集団の動きや身体的変化に関する自然人類学、遺伝学的研究を統合的に展開し、得られた成果・データを集約し、数理解析・モデリングを行う。

【期待される成果と意義】

文明創出に関わる認知的基盤、物質的環境による心や身体の変化について継続的・発展的に研究成果を生み出せる新領域の形成が期待できる。具体的成果として、生物としての個人の能力を超えた知のシステムとしての文化が形成される在り方について、日本列島、メソアメリカ、アンデス、オセアニア各地の実態が明らかとなる。社会固有のリアリティ(行動の基準となる主観的現実)が形成される歴史的プロセスを解明し、新たな人間観・文化観を提示する。

社会的意義・波及効果として、現代の戦争の特異性や国家間の関係性の特質が浮き彫りになることにより、社会的ストレスや暴力行動の緩和、持続的社会的形成につながる具体的提案ができること、現代社会におけるデザインや造形的特徴と社会的状況の関係を読み解く新たな視座が得られ、社会的機能を意識した新たな人工的環境創出の指針を提案できること、今後ますます進行するグローバル化の中で多様性を維持することの意義について考察する基盤が得られることなどがある。

【キーワード】

ニッチ構築：生物が活動や選択を通して、自らの生息環境すなわちニッチを創り出すこと。

【研究期間と研究経費】

令和元年度～令和5年度
1,069,000 千円

【ホームページ等】

<http://out-of-eurasia.jp>
contact@out-of-eurasia.jp